

学校 教育 目標	「えがお かがやき 磯子小」 【知】わくわく感をもって学び、自分の考えをもち、表現できる子を育てます。 【徳】自分が大好き、友だちが大好きな子を育てます。 【体】自分と友だちの体と健康(命)を大切にすることを育てます。 【公】地域を愛し、地域と共に歩む子を育てます。 【開】様々な人とのコミュニケーションを通じて、将来に夢をもてる子を育てます。				
学校 概要	創立 153 周年	学校長 浅野 修一	副校長 足立 由絵	2 学期制	一般学級: 16 個別支援学級: 7
	児童生徒数: 456 人	主な関係校: 岡村中学校 岡村小学校 滝頭小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	岡村中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈自分づくりに関する力〉	岡村中学校 磯子小学校 岡村小学校 滝頭小学校4	友だちや地域の人たちと積極的に関わり、主体的にめあてや問題解決に粘り強く取り組む子 ・授業交流を年2回設定し、各教科・領域において9年間の連続性・系統性を意識した授業を展開する。・児童生徒交流日を中心に、活動に子どもの声を取り入れながら中学校に対する6年生の理解を深めるとともに、中学校生活に向けての意識を高める。・教務主任、小中一貫担当者、専任等各担当者間での情報共有を密にし、自校の学習指導や児童指導の取り組みに生かす。 ・小学校における一部教科担任制を導入した学習指導を行う。

中期 取組 目標	○学校教育目標実現に向け、「信頼」と「創造」をコンセプトにした学校づくりを目指します。 ・児童の学力向上や心の安定を図るという視点に立ち、一部教科交換による学年担任制を組織的・継続的に推進します。 ・学ぶ楽しさや達成感が体得できるような授業づくりを推進し、ICTを活用しながら、基礎・基本の定着を図ります。 ・子ども一人ひとりの自尊感情や自己肯定感を高め、思いを大切にしながら子どもどうし互いに共感的に理解し合える人間関係づくりに努めます。 ・健康な心身を育成するための基礎として、家庭と協力し基本的な生活習慣の形成や定着に努めます。 ・小中一貫ブロックや幼保小ブロック、家庭・地域と連携し、信頼される学校づくりを推進します。
----------------	---

重点取組分野		具体的取組
知	学習指導	①めあて→めあてを意識した授業展開→めあてを意識した振り返りをし、何を身に付けさせるのか確実に理解して授業を行う。
担当	学習研究部	②校内授業研を充実させると共に、資質・能力を明確にした子どもが主体的に学習に取り組む授業を目指す。
徳	人権教育	③家庭学習の充実と習慣化を図ると共に基礎基本の定着を確実にする。
担当	人権・保健・道徳	①なかよし活動の充実を図り、 相手意識をもって生活ができるようにする 。②指導案を作って実践する「いのちの教育」だけでなく、日常に命を大事にする教育を意識して実践していく。③道徳・総合的な学習・特別活動の充実を図り、自尊感情を高めると共に、人間関係形成力を付け、道徳的な実践力を養う。
体	健康教育	①「早寝早起き朝ごはん」や「あいさつ」等、基本的な生活習慣の定着を図るために、養護教諭や栄養教諭と連携した授業の充実を図っていく。②ドッジボール大会や長縄大会等、運動に親しむ機会を設けると共に、今年度は外部機関との連携も図り、運動習慣の定着を図る。③今年度も、学校保健委員会の取組を充実させ、自分の心と体の健康への意識を高める。
公 開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①なかよし活動を中心に、ペア学年との交流を深め、 他学年とのかかわり合いの中で、自己肯定感を高めていく 。②「自分づくりパスポート」の効果的な活用方法について、研修等を通して職員の学びを深めて、児童が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、系統的な振り返りができるようにしたりしていく。
担当	特活部	
いじめへの対応		①YPの研修は、今年度も引き続き行い、一人一人を見とる力をさらに充実させていく。②全学年で授業交換を行い、低中高ブロックごとのチームリーダーを中心に複数の目で児童を見ていく学年担任制と児童支援専任との連携を確実に行う。また、 毎日の健康観察 やアンケートを活用し、いじめ防止及び早期発見に努めていく。③いじめ防止基本方針に基づき、素早い対応・解決に向けて体制を強化していく。
担当	児童指導部	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①メンターチームの研修の充実を図り、学習指導・児童指導の実践力を高める。そのために、必要に応じて外部講師などにも研修を依頼する。②引き続き、校内OJTや計画的な校内研修の実施により職員の資質向上に努める。③児童の資質能力を着実に育むため、全学年で教科交換を行い、学年担任制を推進する。④チームマネージャーを中心としたブロック経営及び学年経営により、ワークライフバランスを推進し働き方改革につなげる。
担当	教務会	
特別支援教育		①関係諸機関との連携・協力を図り、特別支援を要する児童の教育の充実を図る。②学年によって個別支援学級と一般級の担任の連携に差がでないように、双方で確実に連携の意識を高めて実践していく。③特別支援教育支援員を増やしたり、教育ボランティアを増やしたりしていくことで、特別支援を要する児童への対応を充実させていく。
担当	特別支援教育委員会	
児童生徒指導		①「子どものよさを語り合いタイム」の実施方法を工夫し、短い時間の中で、情報共有を確実にしていく。②各種スタンダードの定期的な確認とその都度児童の実態の状況を確実に把握し、 一人ひとりの思いを大切にしながら 、児童に寄り添った指導にいく。③年間を通して学年目標や学級目標を振り返りながら、 一人一人が安心して過ごせる学年・学級 にしていく。
担当	児童指導部	
地域連携		①学校運営協議会と地域学校協働本部により、学校・家庭・地域の連携を深め、協力体制を確かなものにしていく。②地域学校協働本部の活動を充実させ、様々な教育活動や放課後学習へ地域のボランティアの支援を充実させていく。③学校だよりの配信とともに、 ホームページを適宜、更新できるように努める 。
担当	教務会	
情報教育		① 端末の操作や情報活用について、系統的に進められるようにしていく。プログラミング教育の充実を図っていくようにする 。②引き続き、ロイロ等を活用した授業の充実を図り、学習や行動の記録の蓄積や学びの振り返りに活用できるようにする。③今以上に、端末を扱うルールを徹底し、情報モラル教育を確実にしていく。
担当	GIGA SP	